



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一七六号）

清明

四月五日

## 明治の御師

伊勢信仰を全国へ広めた御師、伊勢では「おんし」と呼びました。御師は全国各地に代々の檀家を持ち、毎年御札を配り、伊勢参宮の世話をするなど「お伊勢まいり」の大きな役割を果たしてきましたが、明治四年（一八七一）の神宮改革で廃止されました。その後は、檀家のあった地へ移ったり、ほかの職業に就いたりしましたが、あまり知られていません。

先日、短い期間でしたが、内宮の御師、岩井田家の資料を調べている調査チームの未公開資料が皇學館大学に展示されました。今回は神宮改革前後に神宮神職で、御師であった岩井田家第十六代当主の尚行氏の時代のものが中心でした。

岩井田家は関東地方に多く檀家を抱えていました。その元檀家からの手紙などによると、制度として御師は廃止されていたものの、明治時代以降も神宮の御札は従来のように岩井田家から送ってもらっており、付き合いが続いていたことがわかります。神宮の御札は全国の神社庁から配布される頒布大麻と、神宮の社頭で受ける授与大麻がありますが、参宮しないと受けられない授与大麻を元檀家の依頼により、送付し続け、制度廃止後七〇年の昭和十七年（一九四二）が最後の記録となっています。

また、明治時代は旅館業を営み、元檀家たちを受け入れていました。明治十四年の旅館業の出納帳には、二月・三月で一年分の稼ぎがあったことがわかりました。

「これは旧正月明けに参宮するということです。人々は明治になって新暦に変わっていても、旧暦の意識があったのでしょう」と皇學館大学の櫻井治男先生は分析されていました。

文 千種清美

